

滋賀×SDGs

SDGsの普及と視点の活用について

令和元年6月15日

滋賀県総合企画部企画調整課

- ・豊かさとは何か？ 幸せとは何か？
- ・今の生活は持続可能か？
- ・誰かを犠牲にしていないか？



『新しい豊かさ』を追求
～今だけ、モノだけ、自分だけではない～

「変わる滋賀 続く幸せ」
(滋賀県基本構想 2019～2030年度)



世界とのつながりの中で実践



なぜ、滋賀からSDGsなのか？



滋賀県にはSDGsに通じる思想・歴史・文化が息づいている

琵琶湖・山

～自然・生き物・下流域
のことを考える～



水のつながり
～歴史・文化・産業～

人のつながり

～思想・福祉・教育～

SDGs 未来都市に向けた滋賀県の思い

- 2017年1月、知事がSDGsを県政に取り込むことを宣言（都道府県では全国初）
- SDGsのさらにその先、2050年、2100年に向けて、世界でSDGsの精神を実践する人を育てる未来都市へ

2017.6.1

国連のトーマス・ガス事務次長補来県



日本政府のSDGs実施指針

(平成28年12月22日 SDGs推進本部決定)

【国の推進体制】

- **政府の体制**： SDGs推進本部が司令塔
- **SDGsの主流化**： **国の計画・戦略・方針などに最大限反映**
- **民間企業との連携**： **民間企業の貢献が決定的に重要**
 - ・ E S G投資等持続可能性に配慮した取組
 - ・ 持続可能性を重視しつつあるグローバルな投資家の評価基準
- **地方自治体との連携**： **各地方自治体にSDGsの反映を奨励**
 - ・ 各種計画や戦略、方針の策定や改訂への反映
 - ・ ステークホルダーとの連携強化

我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ (外務省仮訳)



「前文」より抜粋

このアジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画である。

(略)

すべての国及びすべてのステークホルダーは、協同的なパートナーシップの下、この計画を実行する。我々は、人類を貧困の恐怖及び欠乏の専制から解放し、地球を癒やし安全にすることを決意している。我々は、世界を持続的かつ強靱（レジリエント）な道筋に移行させるために緊急に必要な、大胆かつ変革的な手段をとることに決意している。我々はこの共同の旅路に乗り出すにあたり、誰一人取り残さないことを誓う。

「我々の世界を変える行動の呼びかけ」より抜粋

我々は、貧困を終わらせることに成功する最初の世代になり得る。同様に、地球を救う機会を持つ最後の世代にもなるかも知れない。

我々がこの目標に成功するのであれば、2030年の世界はよりよい場所になるであろう。



(1) 基本構想について

- ・みんなの力を合わせて滋賀の未来をつくっていくための将来ビジョン。県はその実現に向け、一緒に取組を進める。
- ・「経済」「社会」「環境」のバランスを図る統合的な取組であるSDGsの特徴を生かす。

(2) 計画期間

2019年度～2030年度(12年間)

基本理念： 変わる滋賀 続く幸せ (Evolving SHIGA)

2030年の展望

(1) SDGs(持続可能な開発目標)

- ・「経済」「社会」「環境」のバランスの取れた持続可能な社会を実現するための世界共通の目標

(2) 人口減少と高齢化の進行

- ・人口減少と高齢化は今後確実に深刻化
2030年の県内人口は約137万2千人
(2015年比 ▲4.1万人、▲2.9%)
2030年の県内高齢化率は28.8%
(2015年 24.2%)

【リスク】・地域コミュニティの弱体化

- ・経済・社会・環境を支える人材の不足
- ・中山間地域の利便性の低下
- ・市場縮小による産業への影響
- ・社会資本の老朽化の進行 など

(3) 第4次産業革命を通じたSociety5.0の実現

- ・産業に大きなインパクトをもたらし、労働や生活などあらゆる物事を変える技術革新

【リスク】・従来の業種の垣根を超えた、世界中の

- ・企業との製品・サービス開発競争
- ・技術革新への対応の遅れによる優位性の低下

(4) 自然環境と災害

- ・地球温暖化の深刻化と世界的な脱炭素化の流れ。生態系バランスの変化や多発する大規模災害

【リスク】・気候変動の幅広い影響

- ・世界的な脱炭素化の流れによる、消費者・市場の行動変化
- ・琵琶湖流域における生態系のバランスの変化
- ・地震などの大規模災害

みんなで目指す2030年の姿

- みんなで目指す2030年の姿を「人」「経済」「社会」「環境」の4つの視点で描く

- ・自分らしい未来を描ける生き方
- ・その土台となる持続可能な滋賀



(1) 人 自分らしい未来を描ける生き方

- ・誰もが生涯を通じ、様々なつながりの中で自分らしくからだもこころも健やかな生活を送ることができるようになり、健康寿命が延びている。
- ・より自分らしい「柔軟で多様なライフコース」を自由に選択し、生涯現役で活躍することや、何度でも再挑戦することができるようになっている。

(2) 経済 未来を拓く 新たな価値を生み出す産業

- ・第4次産業革命への対応、成長市場や成長分野を意識した産業創出・転換、事業展開等が進み、社会的課題の解決に向けた取組が広がるとともに、Society5.0時代における県の成長を支える多様な産業と雇用が創出されている。

(3) 社会 未来を支える 多様な社会基盤

- ・ハード(道路、河川等の社会資本)とソフト(地域コミュニティ、共生社会等)の両面から、地域の特性に配慮した社会基盤の整備が進み、これまで以上に安全・安心な生活や産業活動を支えている。

(4) 環境 未来につなげる 豊かな自然の恵み

- ・すべての人や企業などが環境に配慮した暮らしや産業活動を行うとともに、多様な主体が環境保全活動に取り組み、地域資源を活用した健全な循環のもと、琵琶湖をはじめ、すべてのいのちの基盤となる環境からの恵みがあふれている。

(5) 目指す姿の実現に向けて生かすべき滋賀県の特徴

県の政策の方向性

- みんなで目指す2030年の姿の実現に向けた政策を展開
- 多様な主体相互の新しい協力関係の構築の役割

人

- ・生涯を通じた健康づくりと健康管理による予防
- ・切れ目のない適切な医療福祉サービスの提供
- ・生涯を通じて自分らしく活躍できる社会づくり
- ・社会全体で子どもを育む環境の整備
- ・子どもがたくましくなやかに生きるための教育
- ・生涯学び、活躍し続けることができる社会づくり

経済

- ・グローバルな経営視点や先端技術等による強い県内産業の創出
- ・多様な人材の確保と事業承継の支援
- ・生産性向上や高付加価値化等による力強い農林水産業の確立

社会

- ・社会インフラの整備、コンパクトで移動・交流しやすいまちづくり
- ・身近な暮らしを支える安全安心な地域づくり
- ・農山漁村の持つ多面的価値の持続可能な継承
- ・多様性を認め合い、支え合う共生社会づくり

環境

- ・琵琶湖をとりまく環境の保全再生と自然の恵みの活用
- ・気候変動への対応と環境負荷の低減
- ・持続可能な社会を支える学びと暮らしの定着、国際的な協調と協力

政策の推進方策

- (1)基本的な考え方
- (2)SDGsの特徴の活用
- (3)実施計画(4年間)の策定等
- (4)進行管理 など

県庁内における具体的な取組

■ SDGsを知り、理解する

■ 事業の見直しや新たな施策の創出に
SDGsの視点を活用する

■ SDGsの普及に取り組む

■ SDGsを知り、理解する

- SDGsの趣旨やその背景を知り理解する。

■ 事業の見直しや新たな施策の創出に SDGsの視点を活用する

- 「変わる滋賀 続く幸せ」を実践するため、業務を通して積極的にさまざまな変革に取り組む。
- 自分や係の業務に照らして、「目標達成に貢献できるもの」「将来持続可能でなくなるもの」「SDGsの目標の達成を阻害しているもの」がないかを複眼的な視点で考えてみる。（例：農薬や化学肥料の使用による安定した農産物の生産⇔環境への影響）
- 上記の解決に向けできることを考え、新たな政策や施策の創出に活用する。（例：農薬や化学肥料の使用を減らした農産物生産技術の開発とブランド化）
- SDGsで整理された目標やターゲットのうち、身近な業務に活かせるものがないかを考え実践する。（例：リサイクル可能な物品の使用）
- 部門別計画や実施計画の策定・見直しにSDGsの視点を活用する。（例：計画本文や巻頭あいさつにおいてSDGsに関する文言を盛り込む。）

■ SDG s の普及に取り組む

- 各部局における施策や市町との連携を通じてSDGsの普及啓発に取り組むことで、企業・団体や県民の理解を深め、その実践につなげる。
- 世界が目指す目標達成につながるものについては、「滋賀モデル」として国内外に発信していく。
- SDGsの視点を活用した取り組みをPRする。
例：会議等のあいさつでSDGsについて触れる。
滋賀県版ロゴマークを使用する。 など

◆ 滋賀県版ロゴマーク

【イメージ1】



【イメージ2】



【イメージ3】





滋賀県には琵琶湖を健全な姿で次世代に引き継ぐための環境保全活動や、近江商人の「三方よし(売り手よし、買い手よし、世間よし)」の精神などSDGsにつながる考え方が息づいている。



滋賀県は、県の政策にSDGsの視点を活用するとともに、経済界、大学等の多様なステークホルダーとのパートナーシップを拡大している。

滋賀県 人口 1,412,916人
面積 4,017.38 km²
平成27年10月1日現在(国勢調査)

滋賀×SDGs ワークショップ・実践交流

2018年10月26日から12月まで、持続可能な滋賀を考えるワークショップと実践交流会を大津、近江八幡、米原で開催した。高校生から80歳を超える幅広い年代の述べ100名の方々に参加をいただき、持続可能な滋賀を実現する「SDGs行動宣言」や、パートナーシップのあり方について



持続可能な滋賀を実現するSDGs行動宣言



シンポジウム 2017.6 「サステナブル滋賀×SDGs」

環境や貧困などの問題は一国では解決できない。みんなが豊かになるために、経済を持続可能な形で成長させ、富を分かち合おう。今、世界が試されている。助けを必要としている人を取り残してはいけない。一人ひとりの皆さんの努力が、希望を生む。



国連のトーマス・ガス
事務次長補の基調講演より

シンポジウム 2018.4 「アリス・ウォータースさんに学ぶ 食・農・暮らしの持続可能な未来」

私達は健康や地球環境のために、食べ物の食べ方、買い方などに対する価値観を見直すべきであり、そのために子ども達に食を使った教育を行うことがもっとも重要だ。すでに滋賀ではその取組が始まっており、日本中、世界中のお手本になって欲しい。

アリス・ウォータース氏の基調講演より

※米国で、食を題材とする教育(エディブル・スクールヤード活動)や、スローフード運動に取り組んでいる。



エディブル・スクールヤード の取組に通じる活動 (農業体験学習「たんぼのこ」)



多くの公立小中学校では、児童生徒が、米や野菜などを育て、収穫し、食するという学習活動を通じて、自然・環境・いのち・地域・つながりの大切さなどを学んでいる。

環境 こだわり農業



農業、化学肥料を使用しないオーガニック農業など、琵琶湖の保全や生物多様性保全につながる持続可能な農業を推進している。

滋賀県立大学 SDGs宣言

滋賀県立大学では地域住民とともに、SDGs達成に向けた活動による人材育成や地域の持続的発展への貢献に取組んでいる。



SDGs アクション Mother Lake

遊べる学べる 淡海子ども食堂

食事や遊び、学びを通じて子どもたちが地域の人とつながる共生の居場所「子ども食堂」の活動を支援している。



滋賀SDGs ×イノベーションハブ



産官が連携し、社会的課題解決につながるイノベーションを創出するとともに、新たなビジネスモデルの発掘・構築を目指す。

県内 金融機関の取組

県との包括的連携協定の一環として、社会的課題解決に寄与する事業などに対し県内金融機関が積極的にサポートする新たな金融商品づくりに取り組んでいる。

滋賀銀行
「ニュービジネスサポート資金(SDGsプラン)」
「SDGs私債『つながり』」

関西アーバン銀行
「びわこ・みらい活性化ファンド(FUNAZUSHIファンド)」
「全国版CSR私債～SDGs推進ファンド～」

ぜひ参加してみませんか！ 「滋賀×SDGs交流会」

持続可能な社会に向け、社会のあり方を変革していくためには、パートナーシップが重要。SDGsで様々な人々がつながる場として「滋賀×SDGs交流会」を設立した。2018年11月に開催した第1回交流会には、企業、団体、学生、自治体等、様々な方が集った。皆さまの参加をお待ちしている。

